（別紙4）　　平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3671900417		
法人名	株式会社　南海		
事業所名	グループホーム　いこいの家		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄801－3		
自己評価作成日	平成22年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671900417&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成22年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

少人数の特性を活かして、行事は全員参加型のアットホームな雰囲気になるように取り組んでいる。自分らしく生活ができるように1人の時間も尊重し、自由に屋外で過ごしたり、自室でくつろぐ時間を大切にしている。特に、利用者は、事業所の敷地内にある桜や柿、梅、いちじく、やまももの木々の間の散策や果実の収穫を楽しみにしている。利用者一人ひとりの能力や生活歴に応じて、初詣や地域のお祭りへの参加、住み慣れた地域へのドライブ、お寺参りなどの外出を支援している。地域の資源を活用し、阿波踊りや演芸のボランティア、三番叟の来訪がある。日本料理店からは、握り寿司を目の前で握りに来てくれる。希望者には、学習療法を行っており、利用者の楽しみのひとつとなっている。そのなかで利用者の新しい一面を発見することも多い。家族との連携を密に図るよう心がけており、毎月郵送している生活の様子を記した手紙は家族に大変喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、静かな田園地帯の一画に位置している。木造建てで、一般の民家を思わせる落ち着いた佇まいである。敷地内に柿やいちじく、梅などの果物が植えられ、散策や収穫の楽しみが味わえる。職員は、笑顔で明るく、ていねいに接している。利用者が、家庭的な雰囲気の中で自由に過ごせるよう、全職員で話し合って利用者に寄りそいながら日ごろのケアに取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に全職員で理念を唱和している。理念にそったケアの実践に努めている。	毎日、ミーティング時に理念について話し合っている。全職員が理念を共有し、日ごろのサービスに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日ごろから、地域の方と散歩時にあいさつを交わしている。菊の花をいただくこともあり交流を深めている。また、地域のお祭りにも参加している。	日ごろから地域とのつながりを大切にし、散歩時のあいさつを通して交流を深めている。野菜や菊をもらったり、バーベキューの実施時には地域の方を招待している。防災について地域の方と話し合い、利用者が地域に出たときには声かけや連絡をしてもらえるよう協力をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少数ではあるが、近隣の高齢者の方の介護や病状についての相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所での利用者の生活の報告や疾病、ケガ、食品衛生、防災マニュアルの確認等を行っている。出された意見はサービスに活かしている。また、会議録は家族に郵送している。	事業所の報告や議案を決めて参加者から意見や要望、質問を出してもらっている。出された意見等を話し合い、サービスに活かしている。会議録を家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことなどは、みよし広域連合に相談するようにしている。	わからないことがあれば、積極的に担当課へ出向いて協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員を対象に、身体拘束倫理規定に関する勉強会を実施し周知徹底を図っている。玄関は開錠しており、戸外への出入りは自由にできる。	日ごろから玄関を開錠しており、外出は自由にできるようにしている。地域の方へ協力をお願いし、連絡が取れるような体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を行うなど、日ごろから虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書にそい説明を行っている。また、その際、疑問等を繰り返しお聞きし、契約印は自宅でもゆっくり熟読していただいた後にもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会など、日ごろ出される家族の希望について、職員間で話しあう機会を設け、なるべく実現できるように取り組んでいる。	利用者や家族が意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。出された意見をしっかり受け止め、日ごろのケアに反映できるよう努めている。年2階、家族会を開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営改善に向け、職員の意見を反映している。職員から出された意見により、避難経路の鍵を変更した。	日ごろのミーティングや月1回の全体会議で職員の意見や提案を聞いている。避難経路の鍵を変更するなど、出された意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入するなど、職員が向上心をもって働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ね月1回、職場内研修を行っている。意欲の高い職員には、外部研修に参加するための休暇を付与する等の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者との交流を図っており、事業所のケアに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面談している。本人の要望をお聞きし、話す機会を多くもつことで安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族等と面談を行い意向を確認している。また、来訪時にも本人の様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、グループホームの利用が本人やご家族にとって最良かどうかを、ケアマネジャーの間で十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	梅やいちじくの収穫をしてもらったり、ならわしや風習を教えてもらっている。利用者には感謝の気持を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、会話の機会を多くもつよう心がけている。また、日ごろの利用者の状態を伝えている。遠方の家族には、電話や手紙を通じて連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺へのお参りや家族の協力による自宅での外泊を支援している。また、遠方であっても、なじみのかかりつけ医を受診できるように支援している。	本人の生活歴などをしっかりと把握し、馴染みの美容室へ行ったり友人の来訪を受け、これまでの関係が途切れないよう支援している。また、神社へのお参りや自宅への外泊も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で座る場所を譲り合ったり、お菓子や収穫した果実を譲り合っている。散歩の時には励まし合うなど、利用者同士が支え合える関係を支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも面会に伺っている。また、写真等を届けた時に家族から状態をお聞きしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、本人や家族から生活の意向をお聞きしている。遠慮や認知症の進行もあって、十分意向がくみ取れない場合もあるが、職員個々の判断ではなく、職員間で話し合い計画にも反映するように努めている。	日ごろのかかわりの中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。困難な方に対しては、職員間で話し合って本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに記入し、職員間の共有を図っている。特に、入居してから事業所の生活に馴染んできたころの会話から把握することが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態や過ごし方について、職員間で共有できるように、朝礼時や毎月のチーム会議で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに職員間でサービス担当者会議を行い更新している。特に状態の変化が見受けられる際には、そのつど介護計画を見直している。	日ごろから、本人の視点に立った内容になるよう心がけ、利用者の生活を支える計画をつくっている。担当者会議を行って3か月ごとに更新し、現状に応じた介護計画になるよう柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの1日の様子をすぐに確認できるよう、個別記録の用紙を改善した。職員は、毎日記録して情報の共有を図り、アセスメントに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3回に1回は家族に通院の介助を依頼している。家族の都合により、事業所が柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りの屋台見物や阿波踊り、演芸ボランテイア、草抜きボランティアなど、多くの地域資源を活かし、豊かな暮らしの提供を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。事業所の協力医療機関の受診と決めずに、利用者の希望を聞いている。	利用者や家族の希望を大切にしながら支援している。家族が遠方にいる場合や都合がつかない時は事業所が通院を介助し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に勤務している2名の看護師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	過去1年間での入院はなかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	他ユニットで実際に看取り介護を行ったことから、重度化については職員間の共有ができた。家族会では、事業所でできることとできないことについて説明し、欠席の家族には文書を送付した。家族の意向は面会時などにお聞きしている。	前回の評価結果で終末期のあり方について、統一した方針の共有を図ることについての取り組みが期待されていたが、運営推進会議で話し合い、早い段階から本人や家族と話し合って方針を共有できるよう取り組んでいる。マニュアルも整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、4か月に1度“緊急時の対応”を必ず読んでいる。年1回、AEDや救命救急講習を事業所で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回、火災や地震を想定した避難訓練と消防の通報訓練を行っている。近隣住民に事業所の構造と避難経路について知ってもらうため、事業所見学会を実施した。	2か月に1回、夜間を想定した訓練を実施している。しかし、地域との協力体制が十分ではない。事業所の見学を通して、建物の構造や避難経路について知ってもらえるよう取り組んでいる。	「災害対策として地域住民と連携を図り、避難訓練を行う」と運営規程に盛り込まれているので、今後地域との協力体制を築かれるよう期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノックや声かけなどに留意している。居室の施錠を希望する方には鍵を渡し、管理の支援をしている。トイレの誘導なども さりげなく行うよう心がけている。	利用者の視点に立ち、一人ひとりの思いを大切にしている。トイレ誘導等、プライバシーを損なわないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服や靴を購入する時にはともに選んでいる。入浴を拒否される場合にも無理強いはせず、時間をおいて再度誘導したり、日を変えるなどの対応を行っている。利用者一人ひとりにとってわかりやすい方法で、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、思いのままに広場へ行って果実を採取したり、食事時間を自分のペースで食べてもらうなど、一人ひとりに応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所での毛染めや美容室への外出を支援している。洋服の購入時には一緒に買いに出かけたり、靴を選ぶ時にもデザインや色などを本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶入れや野菜の皮むき、台拭き等をしてもらっている。利用者一人ひとりに応じて、盛り付け量を変えるなどして美味しく食べられるよう支援している。	利用者と職員が同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。利用者の力に応じて台拭きや米とぎ、準備、片づけを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量をチェックし、利用者一人ひとりの摂取状況を把握している。健康上の問題がない方は、嗜好品や食事の汁物で摂取できるよう支援している。食事量もチェックしており、増減があれば医師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い、必要に応じて介助を行っている。義歯は、週3回洗浄液で除菌している。		

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めのトイレ誘導に努め、放尿や失禁を防いでいる。失禁回数の減少に伴い、パッドの使用をやめるなど自立に向けた支援をしている。	チェックシートを活用して早めのトイレ誘導に努め、失禁の防止に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の仕組みを把握し、食物繊維を多く含むおやつの提供や水分の摂取、散歩等を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される場合でも無理強いはせず、入浴日の変更等を行っている。入浴予定日以外でも、希望や皮膚の状態に応じて入浴してもらっている。	本人の希望にそった入浴を支援している。入浴を拒む方には無理強いせずに、柔軟に予定を変更したり、足浴等の対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や起床の時間は決めず、利用者一人ひとりのリズムに合わせている。日中の睡眠も、昼夜逆転にならない程度であれば自由にしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの服薬にあたって、“内服薬の情報”を確認し把握に努めている。また、血圧の異常や病状は、主治医に伝え治療に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品(炭酸飲料やあめ、はちみつなど)は、家族から届けられたり、本人が買い物の際に購入して楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出や散歩以外にも、美容室や買い物の支援をしている。桜を見に行ったり、自宅近くのドライブの支援も行っており、利用者にとても楽しんでもらっている。	散歩に出かけ、戸外の空気に触れたり地域の方と会話する機会を設けている。花見や市外など、日ごろ行けない場所へドライブや外食に出かけるなど、本人の希望にそって支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価　てまり 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者は、自分の好きな菓子を購入し、職員にたずねながら自ら支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から荷物やプレゼントが届くと職員がダイヤルを押して、利用者に電話を取次いでいる。定期的に電話を受けて、そのことを日記に記す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の花を飾るなど、壁面飾りに工夫している。行事の際の利用者の写真や書道、ぬりえを飾っている。	共用空間にソファを置き、テレビを見たり話をするためゆったりとしたスペースを確保している。窓からは四季折々の田園風景が味わえる。玄関や居間には季節の花が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で和室や食堂に座ったり、外のデッキで1～3人で思いのままに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、絨毯や大きな時計、ひ孫さんの写真を持ち込んで飾るなど、一人ひとりの好みの居室となっている。	居室には箪笥やテレビなどが持ち込まれている。遺影や仏壇を置き、本人が安心して過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やトイレに暖簾をかけて目印にしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に全職員で理念を唱和している。理念にそったケアの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日ごろから、地域の方と散歩時にあいさつを交わしている。菊の花をいただくこともあり交流を深めている。また、地域のお祭りにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少数ではあるが、近隣の高齢者の方の介護や病状についての相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所での利用者の生活の報告や疾病、ケガ、食品衛生、防災マニュアルの確認等を行っている。出された意見はサービスに活かしている。また、会議録は家族に郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことなどは、みよし広域連合に相談するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員を対象に、身体拘束倫理規定に関する勉強会を実施し周知徹底を図っている。玄関は開錠しており、戸外への出入りは自由にできる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する勉強会を行うなど、日ごろから虐待防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行っている。現在、成年後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書にそい説明を行っている。また、その際、疑問等を繰り返しお聞きし、契約印は自宅でもゆっくり熟読していただいた後にもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や日ごろ出される家族の希望について、職員間で話しあう機会を設け、なるべく実現できるように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営改善に向け、職員の意見を反映している。職員から出された意見により、避難経路の鍵を変更した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入するなど、職員が向上心をもって働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ね月１回、職場内研修を行っている。意欲の高い職員には、外部研修に参加するための休暇を付与する等の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者との交流を図っており、事業所のケアに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面談している。本人の要望をお聞きし、話す機会を多くもつことで安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族等と面談を行い意向を確認している。また、来訪時にも本人の様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、グループホームの利用が本人やご家族にとって最良かどうかを、ケアマネジャーの間で十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	米とぎや配膳等の役割を担ってもらっている。職員は感謝の気持を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろから、利用者の細かな変化についても、家族に電話連絡を行うなどして連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのなじみの美容室やかかりつけ医の受診を支援している。また、自宅や親類の家に外泊している方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が居室に招きあいともに過ごしたり、お茶の時間には声を掛けあってリビングに来るなど、互いに支え合う関係を支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも面会に伺っている。また、写真等を届けた時に家族から状態をお聞きしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、本人や家族から生活の意向をお聞きしている。遠慮や認知症の進行もあって、十分意向がくみ取れない場合もあるが、職員個々の判断ではなく、職員間で話し合い計画にも反映するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに記入し、職員間の共有を図っている。特に、入居してから事業所の生活に馴染んできたころの会話から把握することが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態や過ごし方について、職員間で共有できるように、朝礼時や毎月のチーム会議で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに職員間でサービス担当者会議を行い更新している。特に状態の変化が見受けられる際には、そのつど介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの1日の様子をすぐに確認できるよう、個別記録の用紙を改善した。職員は、毎日記録して情報の共有を図り、アセスメントに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3回に1回は家族に通院の介助を依頼している。家族の都合により、事業所が柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りの屋台見物や阿波踊り、演芸ボランティア、草抜きボランティアなど、多くの地域資源を活かし、豊かな暮らしの提供を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。事業所の協力医療機関の受診と決めずに、利用者の希望を聞いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に勤務している2名の看護師との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至った場合、事業所から適切に情報を提供している。頻会に面会にも伺い、病院からは状態についての説明を受けている。退院時にも、迎えに行き、医療機関の看護師より退院後の薬剤や注意点の説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際に看取り介護を行ったことから、重度化については職員間の共有ができた。家族会では、事業所でできることとできないことについて説明し、欠席の家族には文書を送付した。家族の意向は面会時などにお聞きしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、4か月に1度“緊急時の対応”を必ず読んでいる。年1回、AEDや救命救急講習を事業所で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回、火災や地震を想定した避難訓練と消防の通報訓練を行っている。近隣住民に事業所の構造と避難経路について知ってもらうため、事業所見学会を実施した。		

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように、目線を合わせ耳元で声かけをするよう心がけているが、大声を出してしまったり、ついきつい口調になる場面がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間等に余裕があるときは、自己決定ができるように支援ができている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いをしないように支援している。自室でテレビをみたり横になってくつろいだり、利用者一人ひとりの時間を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に出かけたり、要望により毛染めを行っている。男性の利用者には、髭剃りの声かけや入浴後のクリーム塗りなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態に応じて、野菜の皮向きや配膳、盛り付け、片付け等を一緒に行っている。食事中、利用者がお茶を入れてくれることも度々ある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりのその日の体調に応じて水分補給を行っている。信仰している宗教により食べられないものがある方には、代用のものを用意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシングが困難な方には支援を行っている。曜日を決めて入歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、トイレ誘導の時間を調整している。夜間にオムツを使用している方でも、要望や声かけにより、トイレの介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や午前・午後のおやつ時には、水分を十分摂ってもらえるよう声かけを行っている。便秘傾向のある方には、冷たい牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から入浴し、ほとんどの方が入浴をされるが「時間が早い」と拒否される方には時間をずらしている。また、その日の入浴を拒否される方には日程変更等により柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室やソファ、自室のベッドで横になって休息している。夜間は、好きな時間に休んでいる。トイレが近い方は、ポータブルトイレを設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	重要な薬は理解できている。薬の副作用と思われる症状が見受けられる際には、看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯、掃除等の家事は、利用者一人ひとりの能力に応じて役割を担ってもらっている。ひ孫のためにおじゃみ作りを楽しんだり、裁縫の得意な利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や散歩以外にも外出の日を設けて、戸外に出かけている。墓参りや外食等は、家族の協力を得ており、地域の方も温かく迎えてくれている。		

自己	外部	項　目	自己評価　赤とんぼ 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を管理できる利用者は、買い物に出かけた際に職員の支援のもと、自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、要望があった時に職員が電話をかけて、利用者に取次ぎをしている。手紙は、お預かりしてポストに投函している。年賀状の支援も計画している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面や生け花を飾っており、落ち着いた雰囲気を創造している。居間に隣接した台所から漂ってくる調理のにおいから、生活感を感じてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やこたつ、ソファ、食堂など、好きな所で過ごしている。また、踊り場やベランダからは景色を眺めることができる。エレベーターを使用し、一階の気の合う方に会いに行かれる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を使用している。また、ベッド以外の畳のスペースを作っている。テレビや時計、主人の仏壇、位牌を持ち込んでいる方もおり、お供えの支援を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方にはベッドに柵を取り付け、寝台が使いやすいように支援している。トイレに“便所”と印をしたり、居室がわかりやすいように表札を付けている。		